

市 況 概 要

※月別（ ）内は前年同月比

- (1 月) 燃油高で暖房を極力控える産地が切花、鉢物共に多く、端境期が重なりと極端に減少する品目も多く見られた。
コロナ5類に移行した影響でイベント需要が微増してきた。

数 量	9,604	本 (	2.1%)	の減
金 額	8,226,965	円 (	17.9%)	の減

- (2 月) 燃油及び電気の高騰で、思うように生育調整が出来ず無加温、無電照、無冷房となる為、出荷時期が重なり、切花及び鉢物も必要な時期に品物が少ない事が多くみられた。

数 量	33,487	本 (	7.3%)	の増
金 額	9,494,298	円 (	18.3%)	の減

- (3 月) 寒の戻りによる開花の鈍化、値上げラッシュによる嗜好品離れ、円安による輸入量の減少で需要期（物日）の集荷機能が懸念される。

数 量	84,091	本 (	10.0%)	の減
金 額	3,436,552	円 (	4.3%)	の減

- (4 月) 国内の高低差が大きい気温で、作物の生長や病気の発生等が見られた品目も見られた。
入荷量で8%の増量で単価では、前年同月と同様となった。

数 量	48,064	本 (	8.0%)	の増
金 額	3,800,179	円 (	7.3%)	の増

- (5 月) 母の日需要も以前ほどの盛り上がりがなく、母の日以降の葬儀需要に助けられ、前年同月平均より19円の高値となった。
東北産の切り花も徐々にではあるが、入荷し始めてきた。

数 量	4,509	本 (	0.7%)	の増
金 額	11,313,442	円 (	20.5%)	の増

- (6 月) 昨今の円安、値上げラッシュによる経済不況により嗜好品の購買の動きに拍車がかかり、非常に厳しい状況にある。
担い手不足で高齢者の生産が多く生産量が上がらない。

数 量	101,403	本 (	16.1%)	の減
金 額	14,344,606	円 (	27.8%)	の減

市 況 概 要

※月別（ ）内は前年同月比

- (7 月) 県内産は、カーネーション、トルコギキョウなどはかなり前進しており、お盆までに残るかが心配。
また、暑さの影響と梅雨による長雨で園場での病気等が非常に懸念される所だ。

数 量	24,471	本 (	4.1%)	の減
金 額	772,192	円 (	1.6%)	の減

- (8 月) 県内産では、お盆向けに作付けされた花が病気や連作障害で全滅に至った産地もみられた。
また、色々な品目で草丈が短く咲いてしまった物も多くみられた。

数 量	209,350	本 (	21.0%)	の減
金 額	12,850,764	円 (	14.0%)	の減

- (9 月) 前年と比べ県内産で8,000本増量したが、県外産では610,000本と大きく減少した。まだ気温が高い為か秋彼岸用の購買が遅くなり、相場に乗れない事が原因で入荷量の前年同月比8%の減少となり、価格の前年同月比9%の減少となった。

数 量	53,681	本 (	8.0%)	の減
金 額	6,071,822	円 (	8.9%)	の減

- (1 0 月) 冠婚葬祭の需要量が極端に減少している為、動いたとしても一時的なものとなり、相場を長期的に動かすほどの影響はない。
高冷地の産地が終盤に入り、暖地物が出始めてはいるが、猛暑の影響で秀品率が非常に少ない現状である。

数 量	31,258	本 (	6.1%)	の減
金 額	4,770,159	円 (	9.1%)	の減

- (1 1 月) 切花、鉢物合わせ、県内産で4,000本、県外産で23,000本、合計27,000本の減少となった。
今だ高温障害が原因でスイートピーは花びらの落花が酷く出荷されない品目もみられた。

数 量	27,533	本 (	5.9%)	の減
金 額	7,819,251	円 (	18.2%)	の増

- (1 2 月) 2024年問題で首都圏から離れている地方への集荷が切花、鉢物共に厳しい状況となっている。
首都圏でも品薄状態となり、価格高騰で当社も中央相場並みの価格形成で販売し、前年同月比68%の上昇となった。

数 量	195,967	本 (	21.3%)	の減
金 額	5,562,403	円 (	6.1%)	の減